第２学年３組　道徳科学習指導案

平成３０年１０月１８日（木）

在籍　男子１６名　女子１３名　計２９名

授業者　教諭　　成田　雅弥

１　主題名　役に立てる喜び　　内容項目〔Ｃ　勤労、公共の精神〕

２　ねらい　自分を「ぼく」に投影して、自分だったらどのように考え、行動するのか話し合う活動を通して、みんなのために役立とうとする意欲や態度を育てる。

教材名　　いま、ぼくに　できる　こと（出典「新しいどうとく２」東京書籍）

３　主題設定の理由

（１）ねらいや指導内容について

小学校１年生及び２年生の指導の観点は、「働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。」である。この時期の児童は何事にも興味をもって生き生きと活動し、みんなのために働くことを楽しいと感じている児童が多い。そのような実態を生かし、自分たちが行った仕事がみんなの役に立つことの喜びや、やりがいなどを感じられるようにすることが大切である。

主人公は自分が助けられた経験から助け合うことの重要性や支援のありがたさを知る。そこでさらにそのことにより、生命尊重の心やよりよい社会づくりに積極的に参加しようとする態度を、育んでいくことが大切となる。

（２）これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、１学期から当番活動、係活動などを通して、クラスのために働いてきた。また学級活動を通して、よりよい掃除の仕方について話し合い、クラスや学校のためにきれいに掃除をしようとしてきた。一方で、働くことに対して面倒に思う様子も見られる。自分が行う仕事が、みんなの役に立っている嬉しさを感じられるようにして、働くことへの意欲を高めていきたい。

１０月に自己肯定感に関するアンケートを行った。結果は以下のとおりである。

	できる すき ある・いる	できない すきでない いない・ない	できるときもある どちらでもない わからない
①あいさつやへんじができていますか。	25	0	4
②こまっている友だちに声をかけられますか。	21	3	5
③友だちと外であそぶことはすきですか。	28	0	1
④とくいなことやすきなことがありますか。	28	1	0
⑤じまんできるようなことがありますか。	13	6	11
⑥じぶんにはいいところがありますか。	18	1	10
⑦あなたはじぶんのことがすきですか。	18	2	9
⑧がっこうやいえであなたのおはなしをきいてくれる人がいますか。	28	1	0

結果を見ると、⑤～⑦の質問において、「できる・すき・ある・いる」と回答した児童が他の項目に比べ、低くなっている。児童の良さや頑張りを認め、自己肯定感を高めていきたい。

（３）教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公である「ぼく」が東日本大震災を経験する。そして避難所生活から多くの人たちへのありがとうの気持ちが溢れていく。修了式に出された宿題は「１日１回以上『ありがとう』といわれること」だった。そこで僕は避難生活を送る人のお手伝いをすることを考えた。ぼくの気持ちを、自分のこととして考えさせ、みんなの役に立つ喜びを共感できるようにさせたい。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うこととする。

①ぼくは、がれきを片付けてくれた人、水を運んでくれた人、支えてくれた先生や友達などに対して、どんな気持ちになったか。

②ぼくはどんな気持ちで避難所で手伝っていたのか。

特に主人公の気持ちに迫るために、役割演技を用いて本時の道徳的価値に迫りたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

４　研究に関して

研究主題 自己肯定感を高める道徳教育～授業づくりを通して～

【仮説】

授業の中で体験的な活動を取り入れることによって、共感的に教材を受け止めることができれば、周りの人の役に立とうという心情が育まれ、自己肯定感を高めることができるだろう。

【手立て】

本時では、「ぼく」が避難生活のお手伝いをする場面の役割演技を行う。その際、パンを渡す「ぼく」の気持ち、パンを受け取る人の気持ち、双方の気持ちを考えさせ、周りの人の役に立とうという心情を育てたい。

５　学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	１　道徳的価値を自分のこととして捉える。 （１）お手伝いに関するアンケート結果を知る。	・今も続けられている人もいれば、続けられていない人もいる。 ・大変に思ったり、面倒に思ったりする人がいる。	・お手伝いは周りの人のためになることだけれど、続けられない人がいることから、周りのために行動することを続ける難しさを捉えさせる。

展開	2　「いま、ぼくに　できる　こと」を読んで話し合う。 （1）地震におそわれた「ぼく」が住んでいる町は、どんな様子ですか。 （2）がれきを片付けてくれた人や水を運んでくれた人に対して、「ぼく」はどんな気持ちになったでしょう。 （3）先生から春休みの宿題が出たとき「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。 3　「ぼく」が避難生活のお手伝いをする場面の役割演技を行う。 （1）パンをもらった人はどんな気持ちですか。 （2）パンを渡した「ぼく」はどんな気持ちですか。 （3）大変だけど、頑張れるのはなぜですか。	・食べ物がない。 ・家がこわれている。 ・どこかに避難しなければならない。 ・大変そう。 ・ありがとう。 ・うれしい。 ・ぼくも恩返しがしたい。 ・ありがとう。 ・うれしい。 ・うれしい。 ・楽しい気持ち。 ・人の役にたてるから ・相手が喜んでくれるのがうれしい。	・教材理解の補足として、写真資料などを用いて東日本大震災の説明を加える。その際、児童の実態には十分配慮する。 ・パンを渡す人ともらう人を一人ずつ配役し、役割演技を通して、教材に対して共感的に理解できるようにさせる。 ・ワークシートに記入する。 ・2人組で話し合う。 ・他者のために頑張ろうという「ぼく」の気持ちに気づかせる。
終末	4　自己を見つめ、本時の学習を振り返る。 （1）これからの生活でどのように自分の仕事をしていきたいですか。	・周りの人のために頑張っていきたい。 ・お家の人のために頑張りたい。 ・クラスの役に立ちたい。	☆自分の生活を振り返り、周りの人の役に立とうとする意欲を高めることができたか。

6　他の教育活動との関連

事前指導		事後指導
(7・8月) 夏休みに家族の手伝いをする宿題を通して、人の役に立つ大切さを実感する。	←→	(帰りの会) 一日の中で、友達の役に立っていた児童を挙げ、賞賛する。

道徳の時間
（１０月） 教材名「いま、ぼくにできること」
困っている人がいた時に、自分にできることは何かを考え、行動し、人の役に立つ喜びや働くことの良さについて学ぶ。

7　評価の視点

【自己を見つめている様子】

・みんなの役に立とうとすることについて考え、これからの生活で自分にできることを探している。

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・物語の「ぼく」の立場に立って、働くことの意義について考えている。

家庭との連携
児童がクラスや友達のためにした良いことを、学級通信や個人面談、懇談会等を活用して、保護者に伝え、家庭でも褒めてもらえる場面を作る。。

8　板書計画

いま、ぼくに　できる　こと

お手つだい
・うれしい
⇕
・めんどう
・たいへん

じしん
・たべものがない
・家がこわれている
・たいへんそう

【「ぼく」の気もち】
・ありがとう
・うれしい

はたらくこと

写真　写真　写真　写真

・ぼくもおんがえしをしよう

・うれしい
・いい気もち←でもたいへん

・人のやくにたつ
・あいてがよろこぶ

◎これからの生かつで、どのようにじぶんのしごとを　していきたいですか？